

アジアの民族運動

1 / 1

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

今日の問い

大戦後、アジアの人々は支配に対してどのように声をあげたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 朝鮮と中国の運動

三・一と五・四

さんいちどくりつうんどう
三・一独立運動

1919年、朝鮮で起こった独立を求める運動。

ごしうんどう
五・四運動

1919年、中国で起こった反日・反帝国主義の運動。

民族自決の考えは、日本の支配を受けていた朝鮮の人々にも希望をあたえた。1919年3月1日、京城(今のソウル)で独立宣言が発表され、人々が「独立万歳」をさけんでデモ行進を行った。運動は朝鮮全土に広がり、**三・一独立運動**とよばれる。日本は軍隊や警察の力でこれをおさえたが、のちに支配のやり方を一部改めた。この運動は、朝鮮の人々の民族意識の強さを示す出来事となった。

中国では、ベルサイユ条約で山東省のドイツの権益が日本にゆずられることになった。これに対して1919年5月4日、北京の学生たちが抗議のデモを行い、日本の商品を買わない運動などが全国に広がった(**五・四運動**)。中国政府はこの条約の調印を拒否した。同じ1919年、孫文は中国国民党を結成し、国内の統一と民族の独立をめざした。

地域	運動	主な相手
朝鮮	三・一独立運動	日本の植民地支配
中国	五・四運動	日本の権益の引きつぎ

2 インドやトルコの動き

ガンディー・トルコ

ガンディー

インドで非暴力の抵抗を指導した人物。

とるこきょうわこく
トルコ共和国

1923年、ケマルらがつくった新しい国。

大戦中、イギリスは植民地のインドに戦争への協力を求め、戦後の自治を約束した。しかし戦後も約束が十分に守られなかったため、インドでは独立を求める運動が高まった。指導者の**ガンディー**は、暴力を使わず、イギリスの支配に協力しない**非暴力・不服従**の運動をよびかけ、多くの人々が参加した。イギリスはこの運動に強い圧力をかけたが、独立を求める声はおさまらなかった。

西アジアでは、大戦で敗れたオスマン帝国が連合国に領土を奪われそうになった。ムスタファ・ケマルらが抵抗して連合国と戦い、帝国を廃止して1923年に**トルコ共和国**をつくった。東南アジアなどでも、民族の独立を求める動きが少しずつ強まっていった。大戦後のアジアでは、民族の自立をめざす運動が各地で広がっていったのである。

問いへの答え

1919年、朝鮮では日本の支配に対する三・一独立運動が、中国ではベルサイユ条約に抗議する五・四運動が起こった。インドではガンディーが非暴力・不服従の運動を指導してイギリスの支配に抵抗し、トルコでは1923年にトルコ共和国がつけられた。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →